



開校21年目

新座小だより 7月号

〒352-0006 埼玉県新座市新座 3-4-1
TEL 048-478-2760 FAX 048-482-6791
<http://www.c-niiza.ed.jp/e-niiza>

令和6年7月1日
児童数：284名



言葉を大切にする

はなみずき門近くにある2年生が育てているミニトマトが赤い実をつけ始めました。農園ではピーマンなどの野菜がすくすく育っています。早いもので1学期もあと一か月弱となりました。

本校は国語を中心に研修を進めています。国語は教科書等にかかっている言葉を手掛かりに学ぶ教科です。日本語の使い方や言い回しについても学んでいくのですが、こうした教科を柱とした研究をしている学校だからこそ、子どもたちには「言葉」を大切につかって欲しいと思っています。



日本ではその昔、言葉のことを「言霊」と言い、魂が宿るものとされていました。1000年以上昔において、日本は言霊の力によって幸せがもたらされる国とされていたようで、有名な「万葉集」では、山上億良という歌人が「志貴島の日本(やまと)の国は事霊の佑(さきは)ふ國ぞ 福(さき)くありとぞ」と詠んでいます。確かに、自分が発した言葉が相手やその場の雰囲気と与える影響には大きなものがあります。温かい言葉が飛び交う環境は温かい雰囲気を醸し出し、幸せな気持ちも生まれます。一方で、心無い言葉が飛び交う環境は、けんかや争いごとも多くなり、安心できない環境を生み出します。

学校での子どもたちのやり取りを聞いていると、荒っぽい言葉を友達に投げかけている様子を見ることがあります。また、帰宅後の様子からも、同様の姿を地域の方々からの連絡を通して聞こえてきています。

子どもたちの言葉の環境は、子どもたち同士のやり取りのみならず、私たち大人の言語環境も影響力があると思います。会話は「キャッチボール」。受け取る相手の気持ちを考えて「言葉のボール」を投げられる子に育ててほしいと思います。

校長 浜田 祐加



6年 修学旅行



4年 風やゴムの力